

武田 智子

ただだ・ともこ 社会福祉士 15 年目

横浜市総合リハビリテーションセンター総合相談部相談支援課

横浜市総合リハビリテーションセンターは、中途障害の方の生活期のリハビリテーションや先天性の障害をもつ方、難病の方などに対してリハビリテーションを行う機関です。ソーシャルワーカー業務としては、ご本人やご家族、関係機関の方々に対して生活や社会参加、就労などにかかわるご相談にのっています。今回ご紹介した本は、どれも実践に活かせるものを選ばせていただきました。日ごろの支援を振り返る一助になれば幸いです。

後輩に薦める 2 冊



ソーシャルワーカーになりたい —自己との対話を通した支援の解体新書

芦沢茂喜，山岸倫子 著

生活書院 2020 年

経験年数 15 年を超える著者 2 人が、対話を通して自身の支援を『解体』するという、興味深い構成になっています。ソーシャルワークとは何か、支援者としての自分をどう活かすかということ、読む人一人一人に考えるきっかけを与えてくれます。本文にある「自分自身のソーシャルワーカー像を作り、磨いていくしかない。永遠に発展途上」という言葉が心に沁みます。ソーシャルワーカーになって間もない方も、中堅の方も、それぞれ得られるものがあり、ぜひ読むことをお勧めします。



対人援助のための相談面接技術—逐語で学ぶ 21 の技法

岩間伸之 著

中央法規出版 2008 年

面接技術は、対人援助を行う専門職にとって必要不可欠なスキルといえます。しかし個性が高く、その場で何が起るかわからない難しさがあり、苦手意識をもつ人も多いのではないのでしょうか。面接技術が単なる技法ではなく「クライアントの思いや感情を言語化し、気づきが促される場であること」、「クライアント自身が課題を解決するプロセスを支援するということ」を、本書は丁寧に解説してくれま

自分の 1 冊



カタツムリが食べる音

エリザベス・トーヴァ・ペイリー 著 高見 浩 訳

飛鳥新社 2014 年

原因不明の難病にかかった著者が、カタツムリとの交流を通して孤立感が解消され、再び生きる力を得る物語です。カタツムリという小さな生き物の能力や神秘性に触れることで、普段私たちが「当たり前」と思っている価値観がそうではないんだということに気づかせてくれます。何より、生活リズムや時間感覚が異なるクライアントに「波長合わせ」する重要性にもあらためて気づかせてくれる本です。不思議なカタツムリの世界に、足を踏み入れてみませんか。